

「交流」を問い直すための10冊

あらゆる物・人・情報が交流する場である都市・地域は、
過去からのさまざまな交流(つながり)が集積した場でもあります。
より豊かで多様なつながりを問い直すために参考となる書籍を選びました。



6 『犬の伊勢参り』

「一生に一度は伊勢参り」の慣習があった江戸時代に、人間の代わりに犬が参拜することがあったという。さまざまな書物に残された「犬の伊勢参り」の記述をもとに、著者はこの不思議な現象が人々の信仰心を投影したものであったことを明らかにする。ファンタジーのような事実を成り立たせた近世日本人の姿を知ることができる一冊。

仁科邦男=著
平凡社新書/2013年



7 『江戸はネットワーク』

趣向を同じくする人のつながり「連」に着目し、山東京伝、葛屋重三郎、平賀源内、松尾芭蕉など江戸期を代表する文化人の活動が「連」のネットワークあつてのものだったことを明らかにする。個々の人物がその場に集い、刺激しあいながら変化し新しいものを生み出すという、動的な文化を創出する「連」のあり方に今こそ学ぶべきである。

田中優子=著
平凡社ライブラリー/2008年



8 『文明の海洋史観』

本書は、国際社会を中心とする世界史の舞台は大陸ではなく、島々と海からなる「多島海」にあるという海洋史観をさらに進め「近代はアジアの海から誕生した」と説く。その壮大な歴史観は、「唯物史観」や「生態史観」のような戦後、誰も疑うことがなかった陸地中心の考え方を真っ向から切り捨てながら、日本の将来指針をも提示していく。

川勝平太=著
中公文庫/2016年



9 『大阪商人』

かつて司馬遼太郎も師と仰いだ歴史学者による近世経済史。1958年の初版刊行当時、戦後マルクス主義の潮流から著者の人間味あふれる経済史観は異彩を放つが、その魅力は今も色褪せることはない。伏見・道修町(どしよまち)の貿易品を取り扱う町人をはじめ、住友家歴代、呉服商の大丸など、「天下の台所」の商人たちの生き様を通して商都大阪の活況を描く。

宮本又次=著
講談社学術文庫/2010年



10 『川の文化』

「お前は川の橋の下から拾ってきた」と言い習わされていたように川が身近だった時代はとうの昔。大小の河川が上流から河口を目指し大地を刻みながら多彩な風景と文化を育んできた「川」の重要性を、今こそ見直す必要があるのではないかと舟運の歴史と川船の種類、川の狩猟、渡しと橋、年中行事と信仰など豊富な事例で語りつくす。

北見俊夫=著
講談社学術文庫/2013年



1 『木村蒨葎堂のサロン』

近世大坂の町人学者にして類い稀なる知的・文化的ネットワークから一大サロンを築いた蒨葎堂の評伝。書画や本草学、医学、蘭学の貴重な文物や標本を蒐集した自邸には、画家、文人、学者だけでなく、大名や外国人までが交流を求め、支援を惜しまなかったという。知的共鳴でつながる江戸後期知識人たちの有り様が伝わってくる。

中村真一郎=著
新潮社/2000年



2 『全集日本の歴史第9巻 「鎖国」という外交』

近世日本を語るキーワードのひとつ「鎖国」。東アジア近世史を専門とする著者は、朝鮮通信使の研究を入口に、長崎、対馬、薩摩、松前の「四つの口」を通じて中国・朝鮮などと交流をもち、対外政策を決めていた日本の姿を明らかにし、鎖国が「外」を意識した主体的な選択であったことを描き出す。新しい近世像を提示する書。

ロナルド・トビ=著
小学館/2008年



3 『宗教とツーリズム ―聖なるものの変容と持続―』

近年、教会や寺社仏閣、聖山など宗教スポットを巡るツーリズムが盛んに行われている。しかし編者はそれらを「断片化し非文脈化した宗教を“パーツ”として消費するという事態」と懸念する。社会学、人類学、地理学、観光学などの成果を駆使しつつ、宗教学的視点で論じた宗教ツーリズム研究の入門書。

山中弘=編著
世界思想社/2012年



4 『新版 空海の夢』

〈日本〉をプログラムした天才・空海のイメージの森に分け入り、現在の視点から、現在の言葉を駆使して縦横無尽に語ることで、これからの日本のあり方をも考えようとする無類の書。生命や世界の成り立ち、言語、宗教と国家の関係など、空海の曼荼羅的な思索と格闘の痕跡は、時を超えて今を生きる人間に多くのヒントを与えてくれる。

松岡正剛=著
春秋社/2005年



5 『江戸の市場経済 ―歴史制度分析からみた株仲間―』

最先進国イギリスに匹敵する経済成長を遂げていた江戸日本。なぜ特定の時代と地域に特化した経済発展が見られたのか。著者は従来の安定政権、貨幣制度の整備、農工商分離の身分制度という定説からではなく、「株仲間」というシステムに注目し、歴史制度分析という経済史の新分野から解き明かす。丁寧に検証した説得力ある一冊。

岡崎哲二=著
講談社選書メチエ/1999年

